

ストーマ陥没に対する保存的対処方法の実際

症例① 90歳の女性、ストーマ陥没

〔ストーマのタイプ〕 ループコロストミー，ストーマサイズ 2.0 cm × 2.5 cm × 0 cm

〔問題点〕

- ・正中創離開部がストーマと近接しており，また，腹部には厚い皮下脂肪があります。
- ・9時方向の深い皺は便がもぐりこみやすく，便漏れの要因となります。
- ・高齢であり，組織耐久性低下があるため，皮膚障害のリスクが高いと考えます。
- ・手の巧緻性の低下，理解力に低下などが加わり，ストーマセルフケア困難な状態です。

〔対処方法〕 (図3)

- ① ストーマ使用装具は，面板は凸型嵌めこみ具内蔵タイプと用手形成皮膚保護材を選択し，ベルトを併用します。
  - ② 座位時9時方向に深い皺があるため，座位で腹部の皮膚を上下に伸展します。
  - ③ 用手形成皮膚保護材をストーマ周囲に使用し間隙を埋めた後，面板を装着します。伸展させた状態を少なくとも5分間は保持します。
  - ④ 固定ベルトを使用しストーマ周囲への面板の密着度を強化します。
- 便漏れや皮膚障害を予防し，良好なストーマ管理を行いオストメイトのQOLを維持することが重要であると考えます。
- ストーマセルフケア困難なケースや独居高齢者・家族の負担軽減など訪問看護ステーションを利用するケースがあります。訪問看護ステーションとの連携を図り，在宅看護での支援を行います。



図3 ストーマ陥没に対する保存的対処方法の実際

ストーマ装具の選択

面板は凸型嵌めこみ具内蔵タイプを選択するでしょう。選択理由は，凸面がストーマの近接部に圧をかけることで，ストーマ排泄口を突出させることができ排泄物のもぐりこみを防ぐことができるためです。面

板のフランジのサイズは，大きすぎると近接部に十分圧がかからないため，ストーマのサイズに約1.5 cm プラスして選択します。さらに近接部に圧をかけ安定させるために，ストーマベルトを併用するとなおよいでしょう (図4・図5)。

A 面板：凸型嵌めこみ具内蔵タイプ

B 固定用ベルト：面板をストーマ周囲に密着・強化させる



図4 ストーマ陥没に対するストーマ装具とアクセサリ

B：幅2～3 cm，長さは調節可能。メーカーによってベルト連結部が異なる



図5 ループイレオストミー；口側のストーマ陥没の保存的対処方法